

## 第 16 回 円山川流域委員会の審議内容

日 時： 平成 19 年 6 月 28 日(木)13 時 00 分から 16 時 00 分

場 所： 豊岡市民プラザ多目的ホール（アイティ 7F）

### 1. 開会

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

### 2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長藤田裕一郎(岐阜大学流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

### 3. 報告

庶務から、第 15 回委員会の審議決定事項の確認、第 15 回委員会以降の経過として、第 11 回、第 12 回、第 13 回課題検討会について報告が行われた。

### 4. 議事内容

4.1 円山川流域委員会からの意見と提言について

4.2 その他

### 5. 審議内容および決定事項

#### 5.1 円山川流域委員会からの意見と提言について

流域委員会より「流域委員会からの意見と提言」（暫定版）が提示され、その内容等に対し議論された。主な意見・質問は以下の通りである。

##### 主な意見・質問

- ・委員会において「意見と提言」を提示するにあたっては、庶務に修正指示を行ったが、下流部の瀬戸川の改修や KTR 橋梁の洪水時の効果に関するコメントが無いように見受けられる。（畑委員）

下流部の瀬戸川については、「円山川下流部における対策について」に記載されている。（藤田委員長）

KTR 橋梁は台風 23 号において洪水が桁にあたるなど、洪水時に危険となる。（河川管理者）

- ・下流部の写真に場所の間違いがあるので修正のこと。（木之瀬委員）
- ・河川整備のあり方の項目それぞれが関係し合うことによって、円山川のあるべき姿がでてくるのではないかと思う。ソフト対策のその他土地利用などの対策は水害に強い地域づくりとも関係しているし、水害を受けている地域でどう軽減するかというところにも関係しており、重要なところだと思う。（菊地委員）

- ・コウノトリ等の理念的なことは書かれているが、具体的なことを記載したい。河川管理者には河川からの視点だけでなく、円山川が豊岡の地域のあり方に直接、間接に関わっているということ意識して欲しい。（池田委員）
- ・ものの見方が狭い内容が多いと思う。提言であれば例えば円山川流域全体を巻き込んだような格好で流域を考える組織を立ち上げるといった大きな話を書いたり、問題に深く立ちいった内容を書いたりしても良いのではないか。（菅村委員）
- ・どなたが読んでもわかるものにしたいと目指すところはあるが、どうしても内容的に専門的にならざるを得ないところが残ってしまう。委員会としての提言という以上は、統一した意見でないといけない。（藤田委員長）
- ・P58の写真のタイトルは「荒廃の進む人工林」ではないか。また、保水力低下が分かるような写真とすべきではないか。指定区間での三面張による河道改修の写真を入れ、下流に影響をあたえていることを示す必要がある。（前田委員）  
適切な写真があれば提供して頂きたい。（藤田委員長）
- ・保水機能については、山林の貯留効果と限界の両面を書く必要がある（畑委員）
- ・個々の大切さは書かれているのでよいが、「生物多様性円山川戦略」のような多様性の考え方を記載してはどうか。（服部委員）
- ・本日の意見をもとに修正作業を行う。（池田委員）
- ・各委員から庶務に対し意見を出し、とりまとめを行う。（畑委員）

流域委員会からの意見と提言について、以下に示す審議決定が了承された。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会に提示された「意見と提言」に対して修正が必要と考える委員においては、委員会後に修正内容を文章化し、庶務に連絡する。修正指示内容のとりまとめと修正作業は庶務が担当する。</li> </ul> |
|---|

## 5.2 その他

「流域委員会からの意見と提言」が作成された後の河川整備計画の決定までの流れに対し議論された。

主な意見・質問は以下の通りである。

主な意見・質問

- ・委員会が終了すると、これまでの委員会資料などをどこが管理していくかを決めておく必要がある。（藤田委員長）

河川整備計画決定までの流れについて、以下に示す審議決定が了承された。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会後に「意見と提言」の修正を行い、国土交通省に提出する。</li> </ul> |
|---|

一般傍聴者からの意見

- ・蓼川井堰の改築を望む。
- ・出石川の堤防嵩上げを出石川全川にわたりお願いしたい。